

内視鏡的ポリープ切除術を受けられる方へ

近年、日本人の大腸癌は、食生活の欧米化に伴い、次第に増加してきています。癌の部位別発症ランキングでは、男女とも3位以内に入るようになりました。

大腸癌は、ポリープが1 cm以上に大きくなって癌化するものと、1 cm以下でも初めから癌細胞のまま増殖していくものとに分けられます。

そこで、癌になる以前のポリープや、早期の癌を発見できるように開発されたのが大腸内視鏡です。

現在では、この大腸内視鏡を用いて、開腹手術をすることなく、ポリープや早期の癌を切除(ポリペクトミー)して完全に治すことができるようになりました。

内視鏡的ポリープ切除術の合併症について

ポリープの切除は電気メスを応用した方法で行います。ポリープの形にもよりますが、20mm前後の大きさのものまで、この方法で切除可能です。

合併症としては、切除部の出血、穿孔、腹膜炎などが0.2~0.3%の確率で起こりえます。これらの場合は入院していただき、適切な処置が必要となります。

内視鏡的ポリープ切除術後の注意事項

当院では、外来で、内視鏡的ポリープ切除術(ポリペクトミー)を行っております。合併症のほとんどは1週間以内に起こりますので1週間は大腸の安静が必要です。

合併症の予防のために以下、7項目をお守りください。

- ①本日の食事は、うどんかお粥程度にして、2~3日は消化の良いものにする。
- ②入浴は避けて、シャワー程度にする。(本日のみ)
- ③過度の運動(登山、ジョギング等)、スポーツ、旅行を控える。(1週間)
- ④禁酒する。(1週間)
- ⑤重い物を持たない。(1週間)
- ⑥高い所に手を伸ばさない。(1週間)
- ⑦温泉に入らない。(1週間)

担当看護師



年 月 日

氏名：

医療法人 みたに胃腸内科

☎(011)530-1522